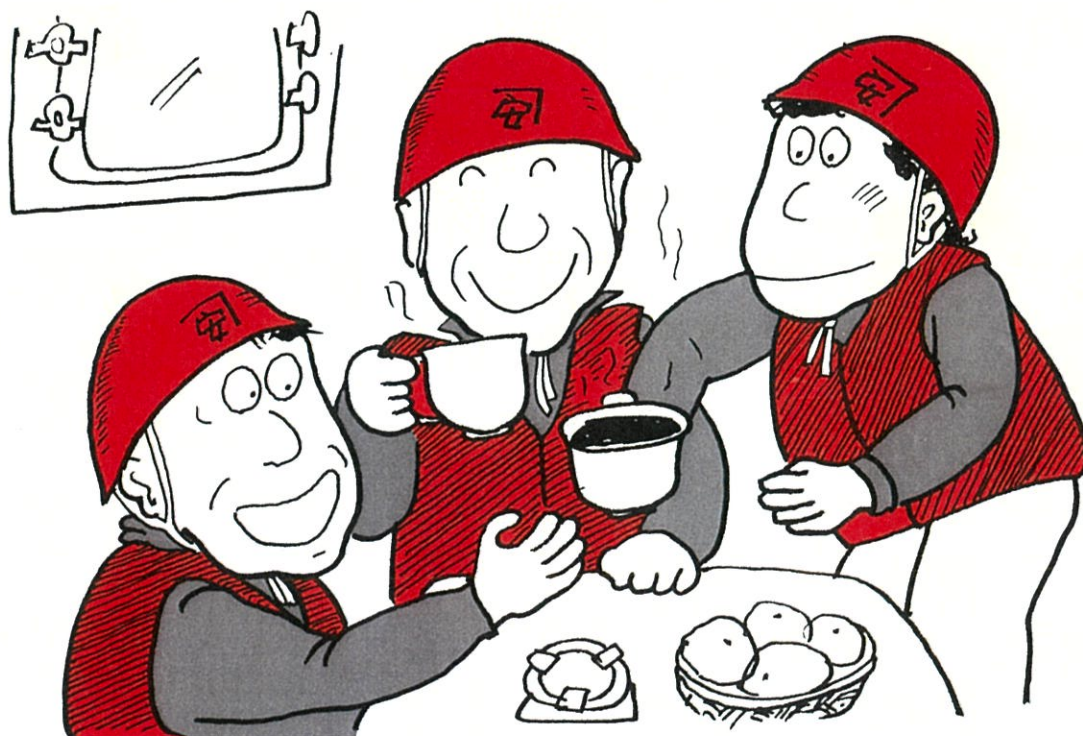


見本

気づいていますか！

熟練船員の過信と油断

高年齢船員の死傷災害防止対策



運輸省海上技術安全局船員部労働基準課監修



船員災害防止協会

目次

はじめに

私は高年齢船員でしょうか？

個人差が大きく、「高年齢」という尺度では測ることは出来ません…… 1

人の一生…… 2

体力を測ってみました

年齢差による体力の違いをみてみましょう…… 3

高年齢者の体力は低下します…… 4

一般の高年齢者と比較をしてみましょう…… 5

高年齢船員の潜在能力を生かしましょう…… 6

医学的に身体の特徴を考えてみました

“私”を知って、ますます元気に働きましょう…… 7

気づいていますか？（高年齢船員の災害の特徴）

災害はいろいろな要因が重なって発生します…… 8

災害はこうして起きます…… 9

これだけの災害が発生しています…… 10

このようなときに災害は起きます…… 11

問題点とその改善策

マネジメントが問題…… 18

物が問題…… 21

作業のやり方に問題…… 24

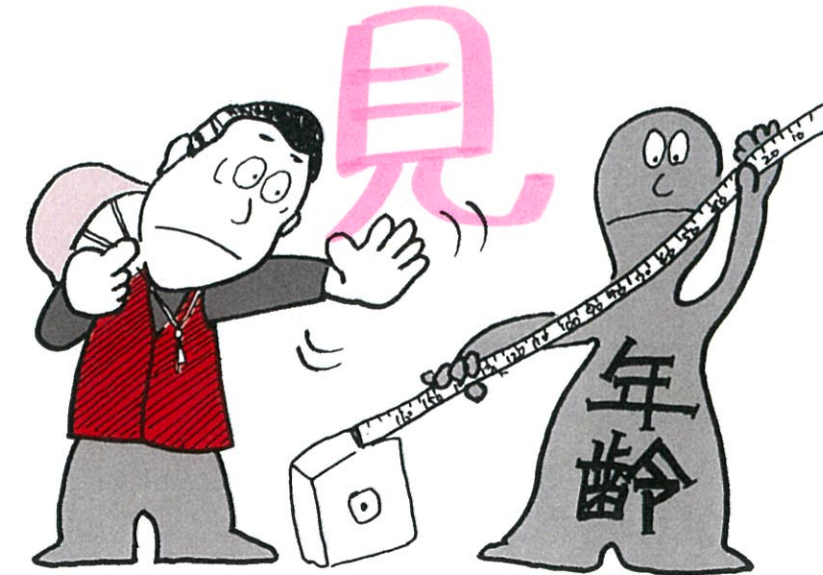
人が問題…… 27

実行しよう！（すぐに役立つ、災害防止の心構え）…… 30

おわりに

私は高年齢船員でしょうか？

個人差が大きく、「高年齢」という
尺度では測ることは出来ません



“少年老い易く”といいますが、現役の壮年者も明日は我が身であり、確実に人は年をとります。そしていつかは老齢期を迎えるわけですが、それでは、自分は何歳から高年齢なのかとなると、十人十色、精神的、肉体的年齢は様々で、全く判然としません。

しかし、今皆さんが何歳であろうとも、その予備軍であることに変わりなく、また、まさにそのまっただ中で、現在ご活躍のベテラン諸氏もおられるわけです。

本誌には、高年齢船員を主人公にした、事例やデータをできる限り盛り込みました。

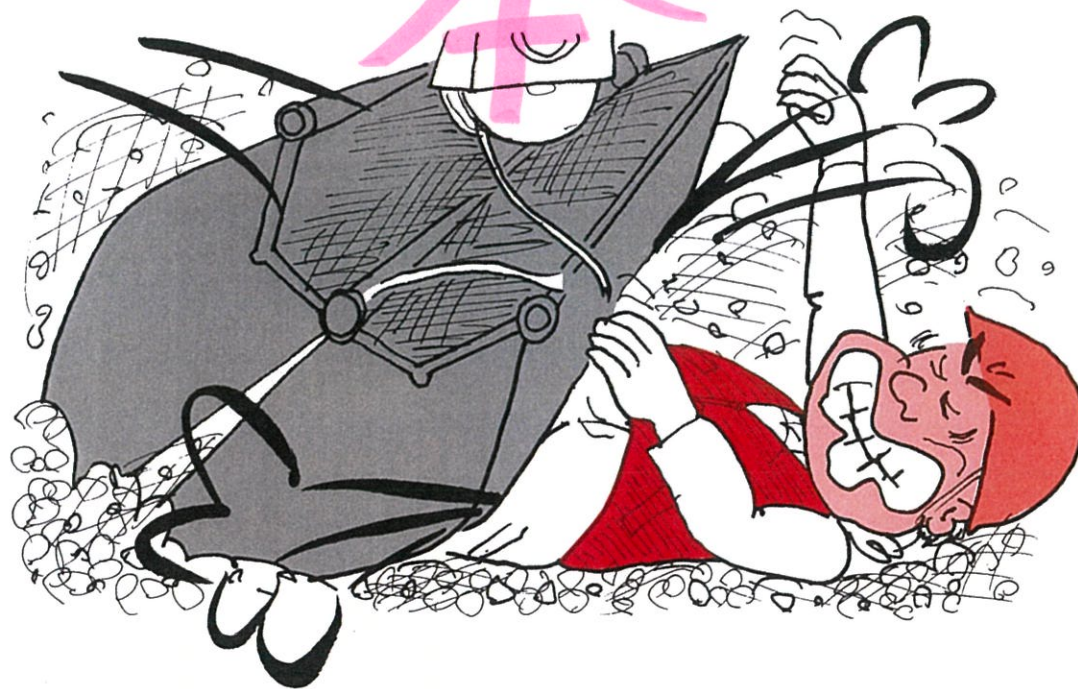
まずご自身をそれらに重ねあわせてみることから始めて下さい。そして、そこに置き換えた自分を他人を見るような目で客観視して下さい。そうすれば今の自分と重なり合う風景が必ず見えてくるはずです。まだ若いのか、それともかなり老いたのか、その年齢的ステージを納得し、素直に自分を評価出来た時、より安全な道しるべが見えてくる筈です。

作業のやり方に問題

『390トンの採石運搬船です。航海中のことですが、停泊中は時間がないので、バケットの開閉ワイヤーの切りつめを、今やっしておうと一等航海士（60歳）がバケットに近寄りワイヤーを引っ張った瞬間、積荷の上でグラグラしていたバケットが倒れ、下半身を挟まれ重傷を負いました。』

そこで、

- バケットを積み荷の上に置くときは、しっかり開いた状態で積み荷を掴ませること。
- 例え、風の航海であっても、普段から習慣づけ、移動防止のための安全索とか、掛けがね等の設置が望まれる。



人が問題

『350トンの内航貨物船ですが、手巻きは危ないですね。特にウ港作業中に51歳の乗組員がワイヤーを専門におかず、ハピンギングエンドでホーサーに巻かれ、ハンドルを倒したままの一人二役は大怪我をしてしまいました。』

そこで、

- ホーサーリール巻き込み式でない場合は、必ず専従者をつけること。
- 高齢者はつまづきやすいので索類をさばきやすいように足元をクリアーしておく。
- 仕事に慣れるほど、（一人二役）がこなせるようになり時にはそれを有能と過信してしまうおそれがあるので、特に、高齢の熟練船員に対しての安全管理は別の意味で重要です。

